

## 平成25年度 堺市障害者自立支援協議会 第10回 障害当事者部会 議事概要

日時	平成26年1月22日（水） 14:00～16:00
場所	堺市総合福祉会館 5階 第2研修室
出席者 （敬称略）	茅原、岸本、白石、帛田、野崎、佐野、川淵、松本、丸野、梅田、前田、三田
欠席者 （敬称略）	谷口、吉村
支援者	なし
事務局	【堺市障害施策推進課】八木、大塚、西岡
事務局補助	【総合相談情報センター】黒木、田淵、上田
傍聴	なし

### ● 意見交流（1）

#### 【部会長から】

- ・これまでの議論の振り返りや、今後の取組みなども含め、自由な意見交流をお願いしたい。

#### 【委員から】

- ・難病について、国からの指定を受け、医療費助成の対象となっている疾患数は現在、56疾患であるが、今後、疾患数を約300疾患に広げる代わりに、現行制度では自己負担の無い重症患者に対しても自己負担を求める方向で見直しが検討されているとのことであり、患者として強い憤りを感じている。
- ・これまでは遠方の自立支援協議会との交流が多かったが、もっと近隣の自立支援協議会を巻き込むような動きをつくっていければ。
- ・精神保健福祉法が改正され、退院促進が強化されることとなったが、単に病院から追い出すだけでは不十分。  
⇒精神科病院の中の病棟を「転換」して居住施設にするという話も出てきているが、病院の敷地内にある建物に移っただけで「退院」とするのはおかしい。
- ・以前、市から「さかい型多機能グループホーム」構想についての説明を受けたことがあったが、現在はどのような状況となっているのか。  
⇒【事務局】平成23年度の時点では、グループホームに相談支援や短期入所などの様々な機能をつけるという構想であったが、住まいの場にそうした機能をつけることについては慎重な意見もあり、現在は「さかい型地域ホーム」という形で、地域の新たな拠点づくりをめざして予算要求を行っているところである。
- ・食事について、身体障害のため「食べるのが面倒」と思うことがある。自宅では長いフォークとスプーンを使って自分で食べるのだが、食べることで自體にかなりのエネルギーを使うので、すごく疲れる。  
⇒入所施設などでは、ドロドロの流動食にして食べさせる場合も多いのでは。

⇒それは嫌。味気ないし、気持ちが悪い。

⇒施設側としては、食べ物が喉につまるなどの事故があれば責任を問われるので、本人の意向ではなく、リスクの少ない方法を選ぶということなのかもしれない。

⇒精神科病院への入院の経験から、食べることを大事にし始めた。当時、入院中はプラスチックのお皿に入った冷たい食事で、パンも、トーストではなく生の食パンでジャムも少しだけしかなかったの、食べるという当たり前のことのありがたみを感じた。

⇒食事は本当に大事なことだと思う。

⇒私も入所施設で20年もの間、冷たいご飯を食べていた。

⇒腸の病気での入院の場合、2か月半の間、絶食となる。点滴だけで2か月半、腸に何も入っていない状態が続くのは本当につらい。食べなくてもよいぐらいの高カロリーの点滴なので、肝臓も悪くなる。退院後、おかゆから徐々に食べ始めるのだが、梅干しとおかゆがこんなにも美味しいのかと感激した。

⇒障害児施設に入所していたときは、夕食は4時で、消灯は8時。18歳以上の障害者施設でも、夕食は4時半であった。その後、粘り強く要望を続けた結果、ようやく6時に変更となった。

⇒お風呂の時間も決まっていたのか。

⇒お風呂は大体、昼の1時～3時ぐらいに入っていた。人手のかかる重度の人が先で、動ける人は後となる。

⇒施設での入浴は、まるで物のように扱われていた。本当はお風呂もゆったりと入りたい。

## ● ブログについて

- ・ブログの画面をプロジェクターで映し、確認。
- ・前回確認した時点から追加された記事は3件。

## ● 次期委員について

### 【事務局から】

- ・広報紙への掲載原稿や公募チラシの案について、前回いただいたご意見を踏まえ、事務局において資料のとおり修正させていただいた。
- ・大幅な文字数の増加がなければ、さらに修正することも可能である。

### 【委員から】

- ・部会の目的として「地域生活をより良くする」というところはよいと思うが、そのために何をしているのかということも追加してはどうか。

⇒活動の内容としては、「当事者ならではの視点を活かしながら、障害種別を越えて議論を深めている」といったことになるのではないかと。

⇒「議論」よりも「話し合い」といった表現の方がよいのではないかと。

⇒「交流や話し合いを通じて」としてはどうか。

⇒そうすると、地域生活をより良くするための交流になってしまうので、「交流を深め」という部分は残した方がよいのではないかと。

⇒「交流を深め」よりも「相互理解を深め」といった表現の方がよいのではないかと。

⇒「地域生活」ではなく、施設入所者や精神科病院に入院中の人も含めた広い意味となるように、

「障害者のより良い生活のあり方」としてはどうか。

⇒もう少し柔らかく、「一人ひとりの地域での暮らし方を良くする」であるとか、「暮らしやすい街にする」、あるいは「社会を変える」といった表現としてはどうか。

⇒「交流」は省略して、代わりに「話し合い」を加えてはどうか。

⇒「当事者の視点で、暮らしやすい地域づくりをする」としてはどうか。

#### 【事務局から】

- ・ご意見を踏まえ、修正させていただく。
- ・なお、当初の案で使用していた文言は、平成20年1月に定められた「障害当事者部会運営要領」の第1条においても使われているが、今回の議論を踏まえ、要領そのものについても改正する必要があると考えられるため、今後、当部会の趣旨や目的についての議論をさらに深めた上で、考え方がまとまった時点で要領改正を行うこととしてはどうか。

### ● 研修の一元化について

#### 【事務局から】

- ・これまで、部会委員の皆さんにもご協力をいただき、「ホームヘルパー事業者研修」と「グループホーム事業者研修」を自立支援協議会（研修担当）として実施してきたが、市において、昨年度から既にホームヘルパー事業者への研修が実施されているほか、来年度にはグループホーム事業者への研修が実施される予定となっていることを踏まえ、来年度以降においては、市の研修に一元化することにより、公的な責任において実施される研修に移行する方向で調整している。

#### 【委員から】

- ・これまでの研修については「研修時間が短い」という課題があったことから、一元化後の研修においては全体の時間配分を工夫し、十分な時間を確保することが求められる。
- ・当部会においてはグループホームの利用経験がある委員が少ないことから、平成24年10月にグループホーム利用者との交流会を実施し、その記録をもとに当事者の声を発信してきたが、そうした交流会を継続して実施するなど、これからも当事者の声を集め、発信していく必要がある。

### ● 意見交流（2）

#### 【今年の抱負について各委員から】

##### ①部会での活動についての抱負

- \*部会のブログを充実させたい。
- \*近隣の自立支援協議会との交流を深めたい。
- \*市内での交流も深めたい。
- \*交流を続けていきたい。視察にも行きたい。
- \*もっと積極的に取り組んでいきたい。
- \*交流会などを通じて障害のある人の意見を聴き、それを発信していきたい。
- \*通院などで、イベントに参加できないことも多かったが、今年はずっと参加したい。
- \*いろんな人とのつながり、一期一会を大事にしていきたい。

##### ②個人としての抱負

- \*何事にもチャレンジしていきたい。

\*アーチェリーに興味があるのでチャレンジしてみたい。

\*健康管理や整理整頓をしっかりとやっていきたい。

\*1か月前、点滴を自分でつないでいたところ、管が割れていることに気づいたが、メーカーの対応が非常に悪く、謝罪もない状態で、現在もなお、やりとりが続いている。点滴の器具にこうした欠陥があると命にかかわるが、メーカーとしての意識があまりにも低く、今後の対応を検討しているところである。

\*就職して正社員となったことに満足するのではなく、今後も前向きな気持ちでチャレンジしていきたい。

## ● その他情報交換、報告

- ・区の協議会において、以下のとおり地域の障害当事者との交流会が予定されており、「ぜひ障害当事者部会からも参加していただけないか」との依頼があった。

\*堺区自立支援協議会

2月5日(水) 13:30~15:30 堺市総合福祉会館3階

⇒現時点での参加希望者： 前田部会長、丸野副部会長、白石委員、川渕委員

\*美原区自立支援協議会

2月18日(火) 10:00~12:00 美原区役所5階大会議室

⇒現時点での参加希望者： 前田部会長、丸野副部会長

## ● 次回 障害当事者部会

- ・2月26日(水) 14:00~16:00 堺市総合福祉会館 5階 第2研修室

\*次回は「地域生活支援部会で議論されているテーマについて」が議題となっているため、地域生活支援部会の委員にも参加を呼びかけており、部会間での意見交流を行う予定。